

# 乳がん検診はマンモグラフィ検診画像認定施設の当院で

## ～高度の撮影技術と精度の高い読影力

乳癌の患者数は近年増加傾向にあります。乳癌にかかりやすくなるといわれている年齢は40歳代です。しかし、患者数は30歳台後半から増加し始めます。そのため、35歳を過ぎたら年に一度のマンモグラフィ（乳腺レントゲン撮影）検診をお勧めします。



乳癌を早期発見するためのマンモグラフィ検診は、高度の撮影技術と精度の高い読影力が不可欠です。

当院は「日本乳がん検診精度管理中央機構」から認定された「マンモグラフィ検診画像認定施設」です。また、検査で撮影する技師は同機構から認定された「検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」です。検査では女性認定技師が担当いたしますので、安心して受診いただけます。

マンモグラフィ検診の画像を読影する医師は「日本乳がん検診精度管理中央機構」主催の試験に合格した「読影認定医」に限られています。読影認定医には5年ごとに資格を更新する制度があり、講習と読影試験を受けることが義務付けられています。試験評価はAS、A、B1、B2、C、Dのランクに分類されます。（下表ご参照ください）

当院ではAS評価とA評価をもつ読影認定医2名が担当しており、高い読影レベルで診断にあたっております。

お身体を守るために当院の乳がん検診をぜひご利用ください。

### 参考

#### 読影認定医 評価区分の基準

	感度	特異度	C感度
AS	90%以上	92%以上	85%以上
A	90%以上	92%以上	—

#### ※注

感度…精査が必要な乳房に対して、カテゴリー3以上と評価できた率

特異度…精査の必要のない乳房に対して、カテゴリー2以下と評価できた率

C感度…精査が必要な乳房に対して、正しくカテゴリー分類が行えた率